

気候変動問題

～日本のプラスチックごみ～

第2回

前号から気候変動問題について記載しています。世界の目標は、気温を産業革命前と比較して1.5℃未満の上昇に抑えようというものです。そのためには2020年（今年）には二酸化炭素の排出量が減りはじめなければなりません。ところが現在も二酸化炭素の排出量は増えつづけています。今回はプラスチックごみの問題についてご紹介します。

▽プラスチック汚染問題

プラスチックは生活のあらゆる場面で使用されている。

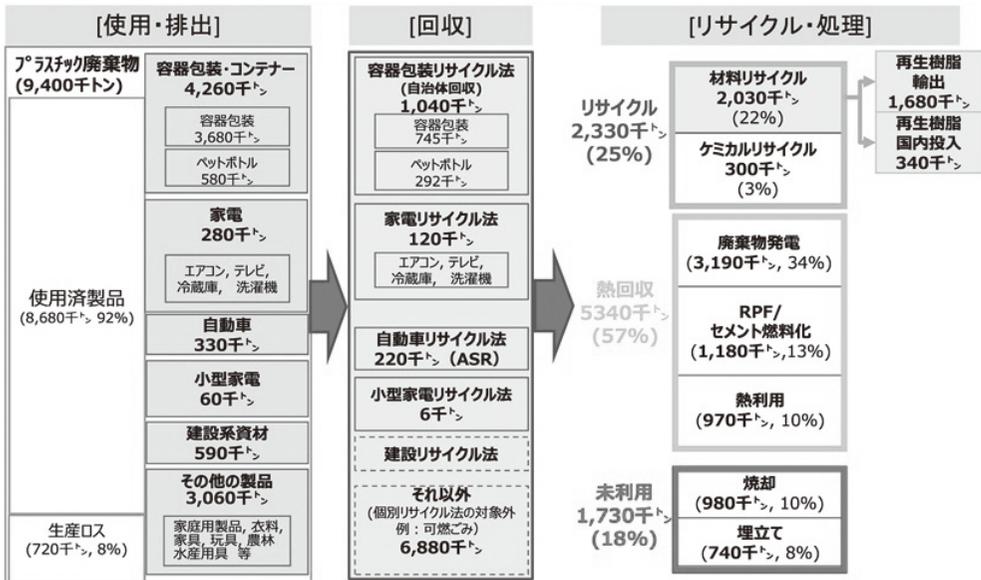
プラスチックによる汚染問題をめぐっては毎年約800万トンのプラスチックごみが海洋に流出しているという試算や、2050年には世界のプラスチック生産量は現在の4倍になり、海洋プラスチックごみの量が、海の魚の量を上回るという予測が世界経済フォーラムで発表されている（World Economic Forum 2016 The New Plastics Economy: Rethinking the future of plastics）。海洋プラスチックごみの主要排出源は、東アジア地域及び東南アジア地域であるという推計もあることから、

開発途上国を含む世界全体の課題として対処する必要がある。

欧州委員会はプラスチックごみ対策に関して、循環型経済におけるプラスチックに関する戦略の策定（2018年1月採択）、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実施を視野に入れた海洋ごみ削減のための行動（2015年から継続中）をおこなっている。具体的には、使い捨てプラスチックの削減（レジ袋以外にもストロー、ボトル、コーヒーカップ、ふた、刃物など）の法的規制が検討されている。

ここでは日本のプラスチックの生産量と廃棄量、リサイクル状況について簡単

■ プラスチック廃棄物=9.4百万トン/年(全廃棄物(431百万トン)の2%)
 ■ リサイクル率=25%、リサイクル+熱回収(サーマルリサイクル、57%)=82%



(出所)「マテリアルリサイクルによる天然資源消費量と環境負荷の削減に向けて」(平成28年5月環境省)

に紹介したい。

日本のプラスチック生産量は世界第3

位、人口1人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量はアメリカに次いで世界第

2位となっている (UNEP

"SINGLE-USE PLASTICS" (2018) 環境省)。

日本のプラスチック使用・廃棄の総量は年間9・4百万トンあり、プラスチックが他の材料へとリサイクルされている割合はそうおおよそ25%である。この割合は、世界平均がおおよそ9%であることを考えれば高い数値といえる。一方で日本では(前述の25%を除く)おおよそ57%のプラスチックが焼却処分として、つまり熱エネルギーとして回収されているのである(サーマルリサイクル)。しかし、サーマルリサイクルは焼却処理をすると二酸化炭素を排出するため、日本のリサイクル率が世界平均と比較し

て単に高いからといって、環境への負荷減少に貢献しているわけではないのである。

他にも日本では、年間150万トンものプラスチックごみを「資源」という位置付けで中国を中心としたアジア諸国に輸出してきた。これについては2017年ころから中国やタイが輸入規制を始めたことで、日本のプラスチックごみの行き場がなくなってきた。2021年からはプラスチックごみの輸出規制強化が図られることになっている(バーゼル条約)。これによって自国のプラスチックごみを自国で処分・リサイクルするよう求められることになる。

今後日本でもプラスチックごみに対する取り組みが加速することが予想される。2020年7月からはレジ袋の有料化が国内で始まる。プラスチックごみを正しく回収し、できるだけ燃焼処理しない方法で他の資源にリサイクルする取り組みが必要であるといえよう。

(総合研究所委託研究員 本多 真)